



愛称は佐賀県鳥力ササギの
学名Pica picaに由来

PICAPICALINK

佐賀県診療情報地域連携システム
ピカピカリンクのこれまでの歩み、これからの課題

第11回ID-LINK研究会（佐賀） 2023年11月25日



PICA PICA Link

佐賀県診療情報地域連携システム

愛称は佐賀県鳥カササギ
の学名「Pica pica Japonica」に由来





愛称は佐賀県鳥カササギの
学名Pica picaに由来

ピカピカリンクの概要

- 行政（県）、医師会、地域の中核医療機関が協力して立ち上げた
- 佐賀県内全域で統一された医療情報連携ネットワーク
- 複数の医療機関を受診する患者の診療情報を施設間において共有することで切れ目なく質の高い医療を提供することを目的とする
- 総務省「地域ICT利活用モデル構築事業」(遠隔医療モデルプロジェクト)を活用して、医療情報連携ネットワークを構築、平成22年11月に稼働した。

立ち上げに際して必須とした要点

- 佐賀県医師会、行政（佐賀県）の協力
- 異なったベンダーの電子カルテ情報を、ベンダーに依存しない全県を統一した共通のプラットフォームで構築する。
- 佐賀県の5医療圏における中核医療機関の診療情報公開



- 先行して電子カルテベンダーに依存せず情報共有が可能であるID-Linkを用いて医療連携を開始していた病院があり、その実績を考慮して、ID-Linkが採用された。
- 県全体の統一プラットフォームで医療連携を行うことを検討当初に合意できたこと、小さい県のため交流がしやすく合意形成をしやすかったことも成功要因である。

佐賀県全体の医療情報共有システム



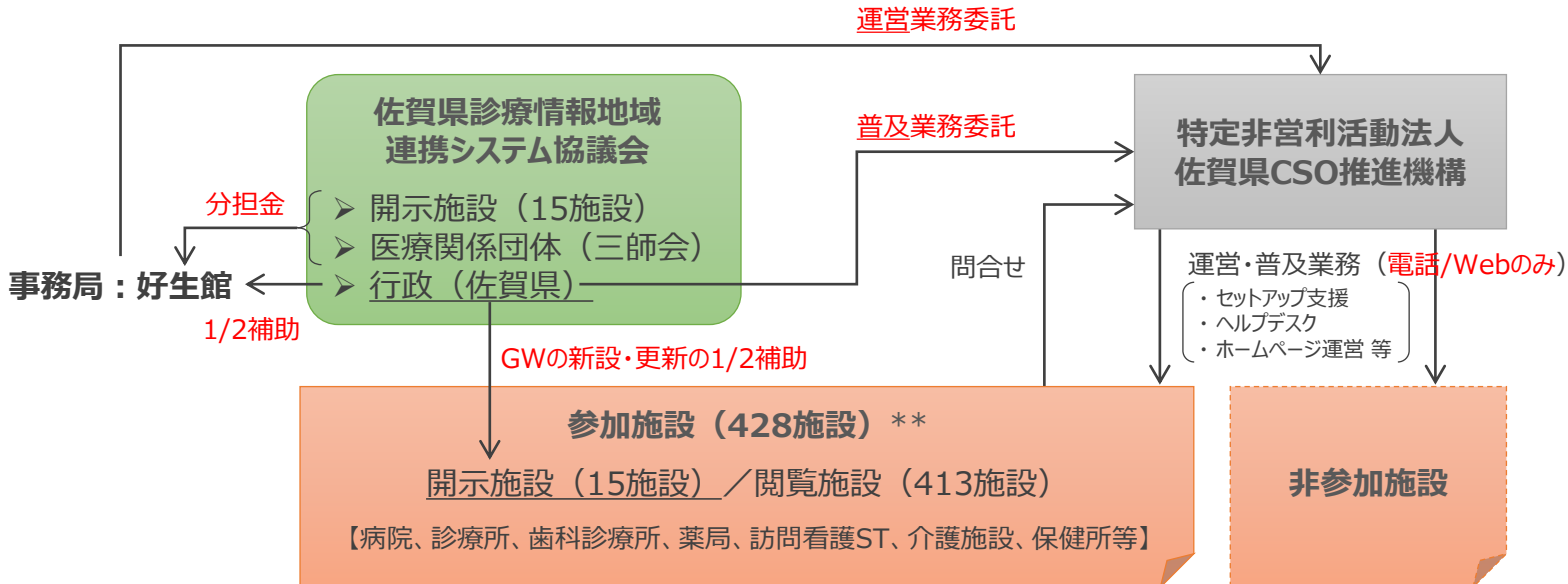
愛称は佐賀県鳥力ササギの
学名Pica picaに由来



- 5つの2次医療圏
- 各医療圏の中核医療機関が診療情報公開
 - 公開15施設
 - 登録医療機関428施設
- 地域の中核医療機関と診療所の間で診療情報を共有
- 小さな県であるために全県一律の取り組みの合意が成し易かった

ピカピカリンクの運営

- 佐賀県CSO推進機構に対し、運営・普及業務を委託
 - ✓ 運営業務は、協議会事務局を務める好生館が委託。委託費の1/2は佐賀県が補助し、協議会構成機関は残額を分担
 - ✓ 普及業務は、佐賀県が委託（医療計画に位置付けられているため）
- 運営業務委託費用を縮減するため、事業内容を見直した
 - ✓ 拠点：専用事務所 → 好生館内の一角を提供
 - ✓ 対応は電話又はWebミーティングのみ（現地対応は別途見積りとし、希望施設が負担）



初期の問題点

- 利用閲覧施設が増えない！
閲覧機関のニーズは何か

あるユーザーの声

『期待していたけどカルテが読める訳ではないんだ。検査結果、画像だけみえてもなあ・・・。』

- 閲覧できる内容だけでも活用すれば役に立つはず
- 使い方考えたら役に立つ、食わず嫌いではないか
⇒ 公開側の勝手な思い込み。

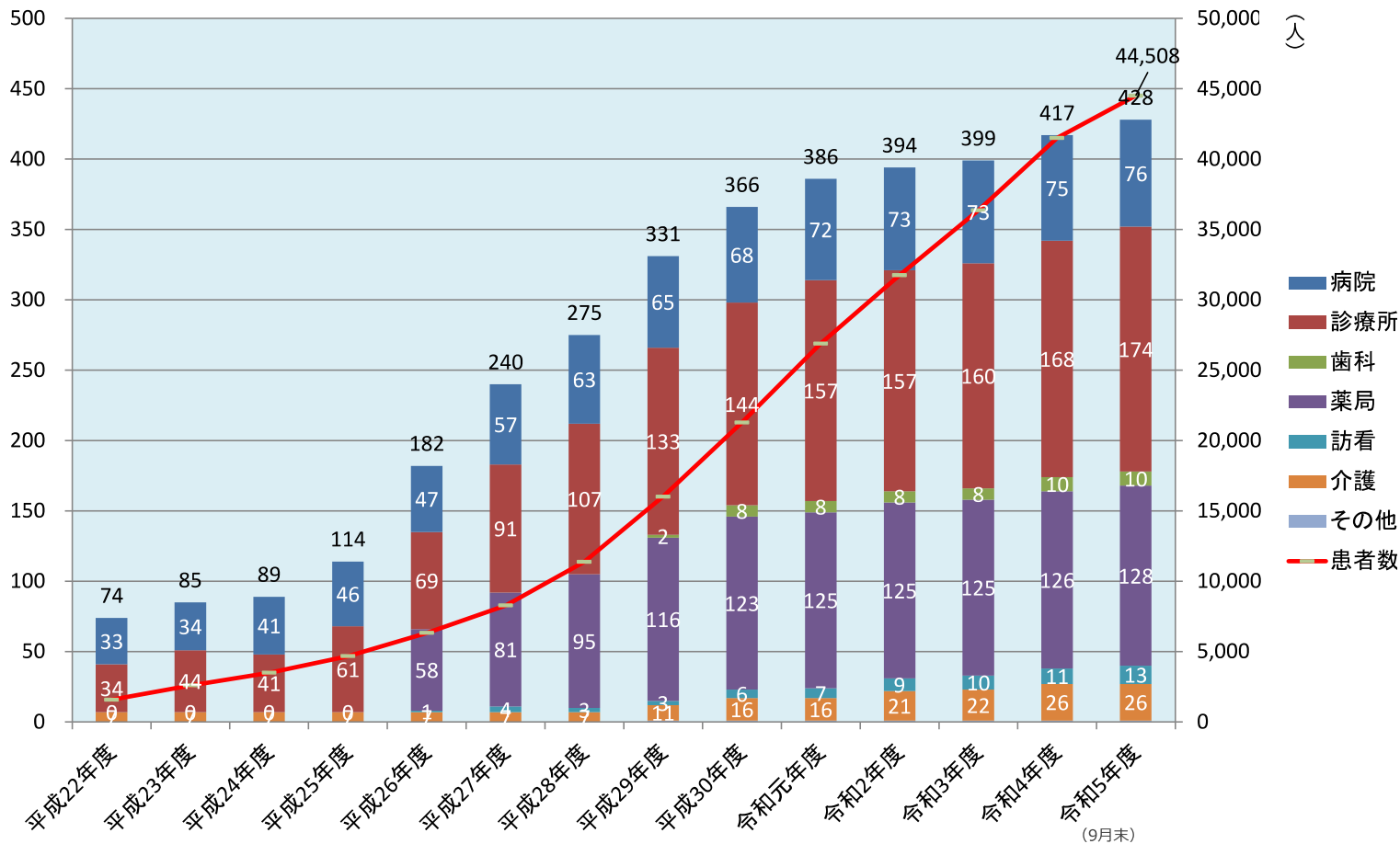
ピカピカリンクの利用者を増やすには公開情報の充実
(とりわけカルテ記事公開) が必要

2015年：ようやく中核病院の一つがカルテ記事公開⇒ その後には登録医療機関の数がこれまで以上に増加。

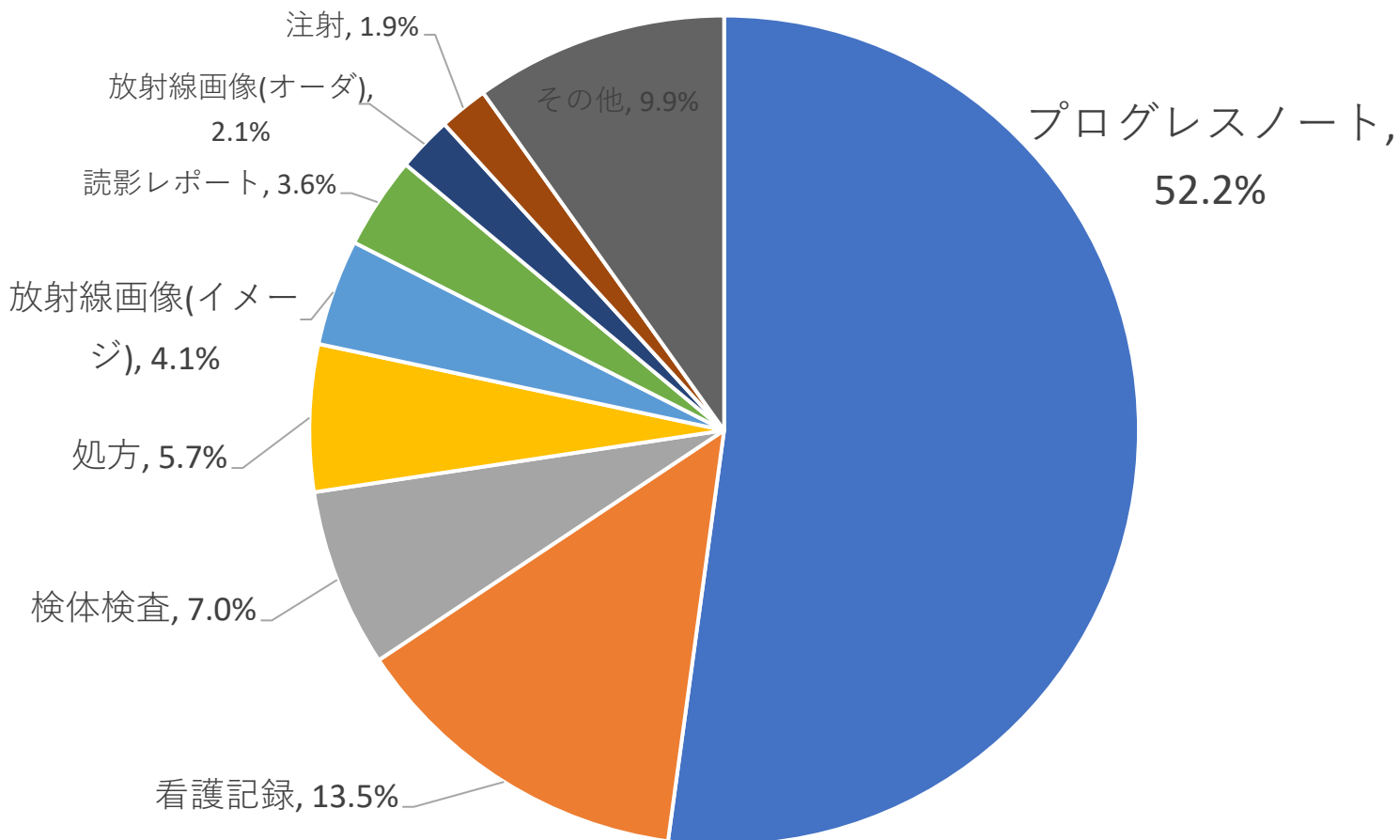
現在は10施設/公開医療機関15施設 がカルテ記事公開
新たに公開施設になる医療機関にはカルテ記事公開を必須としている。

カルテ記事の公開に際して、不適切な記事で、苦情やトラブルになることを危惧する医療機関もあったが、これまでに問題となった事例は一例もなかった。

ピカピカリンク参加数及び連携患者数



参照データの内訳



開示情報

ピカピカリンク開示施設における開示情報等

令和5年9月22日現在

カルテ記事	HIS										PACS		文書							その他								
	処方	注射	検体検査	細菌検査	生理検査（オーダー情報）	放射線検査（オーダー情報）	病名	アレルギー	バイタル	入院期間	サマリービュー	最新データ取得定時実行	DICOM画像*	最新データ取得定時実行	読影レポート	手術所見	退院サマリ	看護サマリ	返書/報告書*	診療情報提供書/依頼書*	その他文書*	健診結果	心電図波形（MFER）	ノート機能による連絡運用	患者インポート機能	デモグラフィック情報同期	患者番号桁数	
佐賀県医療センター好生館	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
佐賀大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
佐賀中部病院		○	○									○	○	○											○			可変
佐賀病院	○	○	○	○	○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○								8
佐賀県健康づくり財団												○									○							可変
唐津赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					○	○	○	10
済生会唐津病院		○	○	○	○	○					○	○	○	○												○		7
今村病院	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	10
織田病院		○		○	○	○			○	○	○	○	○	○												○		6
嬉野医療センター	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					○	○	○	8
東佐賀病院		○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○		○										○		8
伊万里有田共立病院	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○					○		○	○				○		7
白石共立病院	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○		○				○						○		6
新武雄病院	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						○		8
山元記念病院	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					○	○	○	8

*印の詳細内容は2-3ページ

紹介患者入院時の活用



結局、患者さんを送ったとき、入院させたときに、

離島診療における併診患者の情報共有

離島診療における課題

やはり患者さんが島で(医療を)完結できない、そうすると本土側の医療機関を受診する、

利用者の声



ピカピカリンクの利用において良いと感じた点

- カルテ記事の確認ができる
- 画像がいつでも確認でき、多数の画像と比較しやすい
- 開示情報が増えている
- 処方内容や処方理由が確認できる。併用薬が確認できる。
- 紹介後の入院情報のリアルタイムの確認
- 医療機関に負担をかけずにタイムリーに必要な情報を得ることができる。電話連絡の回数を減らせる。
- 患者に聞き取る話ではわからない病名や診察内容が確認できる。患者の安心感、信頼感を得られる。
- 医師の働き方改革対応のため、夜間帯等のコンサル時など、来院せずに患者情報を確認・共有するのにピカピカリンクを経由し画像やデータなど情報共有や対応をしている。
- 夜間・休日でも確認ができる

利用中に不便だと感じた点や改善してほしいと思う点



同意書取得患者登録について改善してほしい

同意書等の手続きに時間がかかってしまう点。ピカピカリンクの説明からしなくてはいけない。患者の理解が浸透していない。先に相手病院に患者さんの申請が必要な所。情報を開示する時点で閲覧する側の同意もって頂ければ受け入れの準備もスムーズにできると思う。患者登録が少々煩雑に思う。死亡された方も表示される。

他医療機関との最初のやり取りがFAXの為、メールにするなどもっとスムーズにできるようにしてほしい。

現在利用中の方がすぐに確認できないので、利用できていない（連携している基幹病院へ通院中の患者は複数いるが、ピカピカリンクに登録されているのかどうか不明）

自動更新されないので、**接続すると自動更新してほしい**。画像をみるときに時間がかかる。

他院ピカピカリンク開示施設からの情報依頼がありピカピカリンクでの情報を閲覧して頂きたいが、閲覧方法がわからないとのことで、紙での情報・画像データの依頼がある。

開示施設によって、資料内容が不十分、**病院の開示情報に差がある**。知りたい情報の記載がない場合がある。記録の書き方が異なる場合がある。公開情報を拡充してほしい。

カルテ内容をオープンにされていない場合、治療がどのように進んでいるのか分からず、紹介してよかったのか、迷惑になっていないか、迷う。

治療内容はわかるが、診断名がわからない。

熱型表を公開してほしい。退院サマリーを開示して内視鏡検査の所見や画像の開示がない。

診療情報提供書や一部の画像など、閲覧できないも

紹介状、返信内容まで閲覧できると助かります（現

薬局に代理の方が来られると、同意をいただくのが

ピカピカリンクのフォーマットが使いにくい。操作

と思う。食事の摂取量などどこを見ていかわからない。

見づらく感じる。検査データはグラフ化、看護記録なども3列ぐらいにしたほうが見やすいです～RSBASE参考に。

ピカピカリンクのカルテ記事を見ると、どれが何の記事かわからず、多くの記載がある場合に、現状の全体像を記載した記事に行けない。何の記事かわかるようにしてほしいです。

見たいデータを探すのが大変。時系列で見ていく時間がかかる。カルテ記事などを閲覧する際に検索機能等があれば、確認したい記事を拾いやすいと感じる。

画像閲覧の際にサムネイルをドラッグする必要があるため、初めて利用する際には操作がわからなかった。

利用者名を全て表示して登録者の確認や検索をする際、ページごとに幅が違う為、ページ送りのコマンドがずれてしまう。

医師・看護師の記録が、画像で、テキストではないので、文言のコピペができない。しかも、印刷するとページの境が抜けて、文脈が途切れる。

大きい病院で胸部レントゲン検査をされている方の画像を印刷したかったが、簡単に印刷できず困りました。

接続がうまくいかないことがある

開示内容の充実拡大 操作方法の改善

から簡単に利用できるとよい。

たら、より操作しやすくなる

地域のユーザーとして感じたこと

ID-LINKを通じて得られる診療情報は、日頃の診療の中でとても有用である。（特に診療録の記事記載）

紹介した患者の現状把握にとどまらず、自己研鑽の一助にもなる。（専門医の診療計画における思考の流れを追うことができる）

情報が充実してきた事で、その有用性は以前と比較できないほどに高くなった

地域医療の方向

- 「病院完結型医療」から「地域完結型医療」へ
- ゲートキーパー機能を備えた「かかりつけ医」
 - 必要な時、必要な医療にアクセスできる
- 川上から川下までの医療提供者間のネットワーク化
 - ICT技術の活用で、地域医療者による迅速かつ適切な患者・利用者情報の共有・連携
- 医療情報連携ネットワークの普及促進
 - 医療の質の向上と効率化の実現

一方向型医療連携



急性期病院



回復期病院

脳卒中
大腿骨頸部骨折 等



診療所

双方向型（循環型）医療連携



専門医の
いる病院



診療所

例：半年おきに専門医受診
それ以外の投薬や経過観察はかかりつけ診療所

入院中の検査や、薬の調整
がよくわかった。
先日のCTの検査では、再発
もなかったようだ。

日頃の状態はこうな
んだ。なるほど

医療連携IT化の選択

連携に役立つ情報の共有をIT化
(例：ピカピカリンク)

連携のしくみそのもののIT化
(例：紙連携パス⇒電子的連携パス)

地域連携パスとピカピカリンク

診療情報共有の深度 : 連携パス << ピカピカリンク

必要な情報の種々選択性 : 連携パス >> ピカピカリンク

特性を相互に補完出来る

電子連携パス + ピカピカリンクによる循環型診療連携

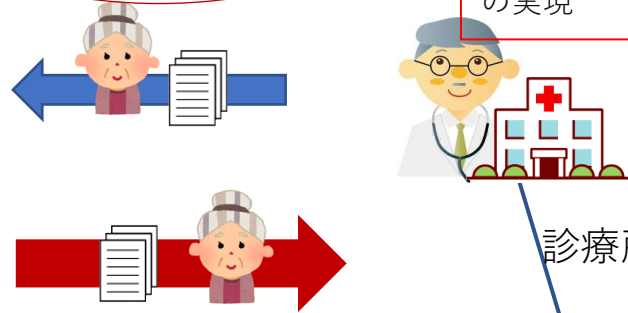
電子 ## 地域連携パスシステム等

日頃の状態はこうなんだ。なるほど

専門医のいる病院



大量の情報共有
時間同一性
空間同一性
省力化
の実現



インターネット

閲覧

ピカピカリンク

入院中の検査や、薬の調整がよくわかった。先日のCTの検査では、再発もなかったようだ。



ID Link

例：半年おきに専門医受診
それ以外の投薬や経過観察はかかりつけ診療所

運用中の地域連携パスの現状

電子パスの実現したパス

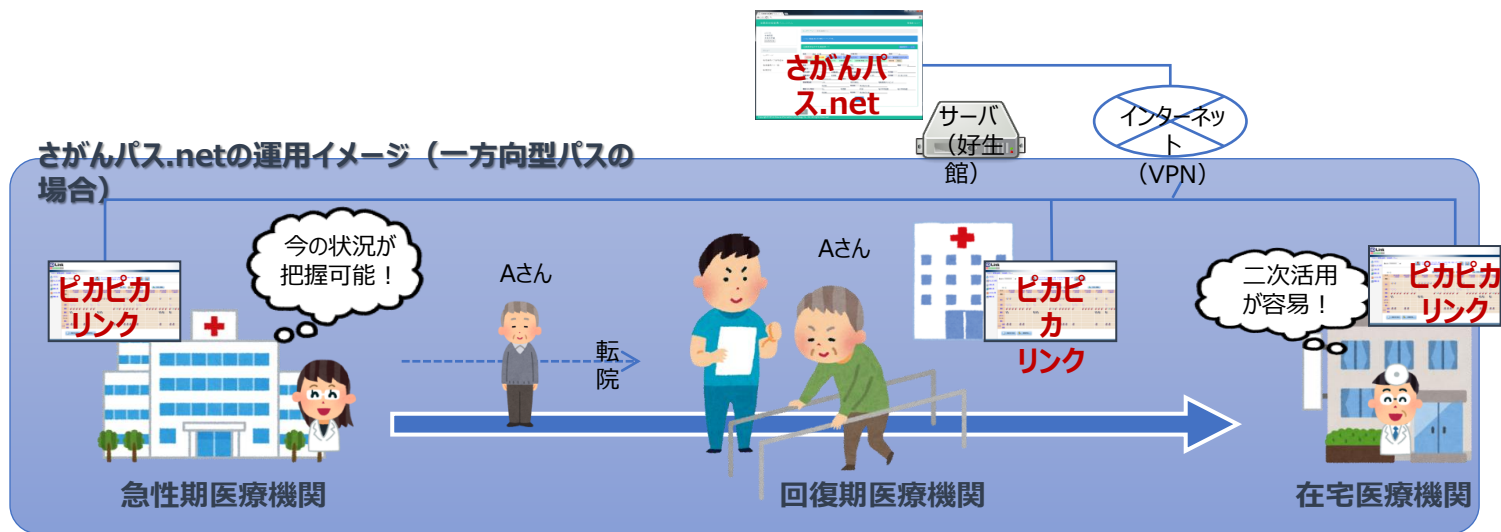
- 脳卒中地域連携パス
 - 統一書式
 - 電子パス（さがんパスnet）および紙パス並行運用

電子化が実現していないパス

- 大腿骨頸部骨折地域連携パス・・・ 近く実現する
- 完全統一書式ではない
 - 紙パス
- 癌地域連携パス・・・ 種別が多く実現は困難
- 紙パス、私のカルテ
 - 癌種別ごとのパス
- 急性心筋梗塞地域連携パス
- 糖尿病地域連携パス

ピカピカリンクを通じて利用される機能

脳卒中地域連携パス（さがんパス.net）





ピカピカリンク将来への期待

- 地域一患者一カルテの実現に近づくこと
 - 双方向性の医療情報共有
 - ストアクライアント機能の活用
 - 地域完結型医療への地域医療関係者の意識統一
- 県内医療機関がすべて参加し、名実ともに県内統一の医療情報共有システムとなる事
- 全国医療情報プラットフォームに無いID-Linkの特性を生かした地域における活用方法を確立する。

まとめ

- 平成22年に佐賀県統一の医療情報共有システムとして始まったピカピカリンクは令和5年には登録患者約45000人、参加医療機関428施設まで発展した。
- 医師会、佐賀県、中核医療機関が協力して立ち上げと運営にあったこと、小さな佐賀県という点から容易に全体合意の上協力体制が出来たことは、成功要因の一つである。
- 閲覧施設が望むカルテ記事を公開したことが、参加医療機関が増加する重要な要点であった。
- ピカピカリンクとリンクして利用が可能な電子連携パスの更なる充実と双方向性の医療情報共有が実現できれば、地域一患者一カルテの理想に近づく。



ご静聴ありがとうございました。